

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年4月14日(2011.4.14)

【公表番号】特表2009-523571(P2009-523571A)

【公表日】平成21年6月25日(2009.6.25)

【年通号数】公開・登録公報2009-025

【出願番号】特願2008-551494(P2008-551494)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/58 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/58 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月25日(2011.2.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

隣接する下位関節面と結合するように第 1 の椎骨に取り付け可能な上位関節面と、
前記上位関節面の前記第 1 の椎骨への取り付けとは独立して、隣接する上位関節面と結合するように前記第 1 の椎骨に取り付け可能な下位関節面とを含み、
前記上位および下位関節面の少なくとも 1 つが、前記第 1 の椎骨に多軸調整可能に取り付け可能であることを特徴とするシステム。

【請求項 2】

前記上位関節面が第 1 の上位補綴物に組み込まれ、前記下位関節面が第 1 の下位補綴物に組み込まれていることを特徴とする請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 3】

前記上位関節面および下位関節面の両方が、前記第 1 の椎骨の右側および前記第 1 の椎骨の左側から選択された側に配置されるように構成されることを特徴とする請求項 2 に記載のシステム。

【請求項 4】

前記第 1 の上位補綴物および前記第 1 の下位補綴物を前記第 1 の椎骨に取り付けるために、前記第 1 の椎骨に埋め込み可能な固締部材をさらに含むことを特徴とする請求項 2 に記載のシステム。

【請求項 5】

前記第 1 の上位補綴物および前記第 1 の下位補綴物の両方が、前記第 1 の椎骨に多軸調整可能に取り付け可能であることを特徴とする請求項 2 に記載のシステム。

【請求項 6】

前記第 1 の上位および下位補綴物が椎骨に組み付けられるように構成され、前記第 1 の上位および下位補綴物の前記第 1 の椎骨への取り付けが完了する前に、前記第 1 の上位および下位補綴物の両方が前記第 1 の椎骨に対して単一の回転中心の周りで多軸回転可能であるようになっていることを特徴とする請求項 5 に記載のシステム。

【請求項 7】

前記第 1 の上位および下位補綴物がそれぞれ半球面を含む取り付け部分を含み、前記第 1 の上位および下位補綴物の半球面が前記単一の回転中心を提供するように互いに対して入れ子になる形状であることを特徴とする請求項 6 に記載のシステム。

【請求項 8】

前記第 1 の上位および下位補綴物の半球面の少なくとも 1 つが、前記取り付け部分が前記第 1 の椎骨に取り付けられると前記半球面の変形を容易にするように構成された特徴を含むことを特徴とする請求項 7 に記載のシステム。

【請求項 9】

第 2 の上位補綴物および第 2 の下位補綴物をさらに含み、前記第 1 および第 2 の上位および下位補綴物が協働して左側および右側の上位関節面ならびに左側および右側の下位関節面を前記第 1 の椎骨上に設けるように構成されることを特徴とする請求項 2 に記載のシステム。

【請求項 10】

前記第 1 の下位補綴物と前記第 2 の下位補綴物の間の相対動作を実質的に防ぐように、前記第 1 および前記第 2 の下位補綴物に取り付け可能なクロスリンクをさらに含むことを特徴とする請求項 9 に記載のシステム。

【請求項 11】

脊椎の第 1 の椎骨および第 2 の椎骨に取り付け可能であり、前記第 1 の椎骨と前記第 2 の椎骨の間の相対動作を実質的に防ぐ、第 2 の補綴物と、

前記第 2 の補綴物による前記第 1 の椎骨と前記第 2 の椎骨の間の相対動作の防止とは独立して、前記第 1 の椎骨に取り付け可能であり、前記脊椎の第 3 の椎骨上で第 2 の関節面と結合する形状の第 1 の関節面を含む第 1 の補綴物とを含むことを特徴とするシステム。

【請求項 12】

前記第 2 の補綴物の前記第 1 の椎骨への取り付けとは独立して、前記第 1 の補綴物が前記第 1 の椎骨にさらに取り付け可能であることを特徴とする請求項 11 に記載のシステム。

【請求項 13】

前記第 1 の補綴物および前記第 2 の補綴物を前記第 1 の椎骨に取り付けるように、前記第 1 の椎骨に埋め込み可能な固締部材をさらに含むことを特徴とする請求項 11 に記載のシステム。

【請求項 14】

前記第 1 の補綴物が前記第 1 の椎骨に多軸調整可能に取り付け可能であり、前記第 2 の補綴物が、

前記第 1 および第 2 の椎骨に取り付け可能に構成されたロッドと、

前記ロッドを受けるように構成されたヨークとを含み、前記ヨークが前記第 1 および第 2 の椎骨の 1 つに多軸調整可能に取り付け可能であることを特徴とする請求項 13 に記載のシステム。

【請求項 15】

前記ヨークが前記第 1 の椎骨に多軸調整可能に取り付け可能であることを特徴とする請求項 14 に記載のシステム。

【請求項 16】

前記第 1 および第 2 の補綴物の少なくとも 1 つが、前記第 1 の椎骨に多軸調整可能に取り付け可能であることを特徴とする請求項 11 に記載のシステム。

【請求項 17】

前記第 1 および第 2 の補綴物が前記第 1 の椎骨に組み付けられるように構成され、前記第 1 および第 2 の補綴物の前記第 1 の椎骨への取り付けが完了する前に、前記第 1 および第 2 の補綴物の両方が前記第 1 の椎骨に対して単一の回転中心の周りで多軸回転可能であるようにしていることを特徴とする請求項 16 に記載のシステム。

【請求項 18】

前記第 1 および第 2 の補綴物がそれぞれ半球面を含む取り付け部分を含み、前記第 1 および第 2 の補綴物の半球面が前記単一の回転中心を提供するように互いに対して入れ子になる形状であることを特徴とする請求項 17 に記載のシステム。

【請求項 19】

前記第 1 および第 2 の補綴物の半球面の少なくとも 1 つが、前記取り付け部分が前記第 1 の椎骨に取り付けられると前記半球面の変形を容易にするように構成された特徴を含むことを特徴とする請求項 18 に記載のシステム。

【請求項 20】

前記第 2 の補綴物と協働して前記第 1 の椎骨と前記第 2 の椎骨の間の相対動作を実質的に防ぐように前記第 1 および第 2 の椎骨に取り付け可能な第 3 の補綴物、および前記第 2 の補綴物と前記第 3 の補綴物の間の相対動作を実質的に防ぐように前記第 2 および第 3 の補綴物に取り付け可能なクロスリンクをさらに含むことを特徴とする請求項 11 に記載のシステム。